

栄光時計 Presents 世界の至宝展 ANTHOLOGY in OSAKA 2026

3月15日(日)・16日(月) リーガロイヤルホテル大阪

創業80周年という大きな節目を迎え、より一層小売店に寄り添った商いを

珠玉のジュエリーや舶来時計など日常からセレモニーまで華やかに彩る逸品を一堂に集めた関西最大の消費者イベント「世界の至宝展 ANTHOLOGY in OSAKA 2026」が、3月15日・16日の2日間、リーガロイヤル大阪で開催される。

コロナ禍後のアンソロジーでは、国内の宝飾市場を盛り上げようと様々なアイデアを取り入れた企画や商品などで消費マインドの向上を目指している。今回は「旅」をテーマにさらにパワーアップしたアンソロジーの世界の至宝展らしい選り抜かれた美しい煌めきの数々による特別なひとときを楽しみたい。

栄光時計は今年、創業80周年という大きな節目を迎える。これまでに培ってきた卸売業としての「誠実な商い」を軸に、業界の持続的な発展に大きく貢献すると関係者から大きく期待されている。

さらに80年という歴史の中で磨き続けられた商品知識や目利き力、そして現場での提案力には定評がある。それに加え、時代の変化と共に変化する消費行動や為替動向、社会環境などに対しても、栄光時計は新たな可能性を見出す契機と捉え、国内需要の再評価、富裕層や次世代顧客へのアプローチのほか、多様化するインバウンド国籍への対応なども強化していく構えだ。

国内市場においては、単なる価格訴求ではなく、量から質への転換が求められていることに加え、商品の背景や作り手の想いや価値などを丁寧に伝えることが、これまで以上

に重要になっていることも栄光時計はいち早く捉えている。これまでも国内の宝飾市場の活性化に力を入れてきた栄光時計は、この節目を新たな出発点とし、国内市場の更なる深耕をはじめ、安定した売り場づくりに向けた提案、営業の強化などを進めながら、より一層小売店に寄り添って行くことを目指す。

日本のジュエリーの歴史に残される国立美術館収蔵作家の価値を知る

成熟した日本のジュエリー市場へ国内外のブランドジュエリーを紹介するのはもちろんのこと、栄光時計が特に力を入れているのが、日本の宝飾、日本の伝統工芸、日本のクリエイター、日本の宝飾職人たちである。

世界の至宝では飽き足らない目の肥えたジュエリーファンに、よく見てよく知ってもらいたいのが、国立美術館収蔵作家による、歴史に残されるべき価値をもった作品の数々である。

国立美術館収蔵作家のジュエリーは、「装身具」ではなく「美術作品」。アクセサリや贅沢品、ファッション小物でもなく、立体美術や彫



中村ミナト

刻、コンセプトアートの一形態のような『身に着けられる美術史』といっても過言ではない。

一般的なジュエリーは、宝石の希少性や地金の価格、デザイン、ブランド力などが評価されるが、国立美術館が注視するのは、造形思想、素材の再定義(貴金属以外も含む)、時代性・社会性、ジュエリーという概念を更新しているか、次世代の作家に影響を与えているかなどで、一般的なハイジュエリーの評価軸とは全く違うところに魅力があり、「身に着けられる文化財」のような感覚で世界のコレクションに愛される作品として認められているのだ。

個人の評価を超え、国として「文化史に残す価値がある」と認定された作品が国立美術館に収蔵される。国が公式に日本或いは世界で、ジュエリーの美術史を語るのに欠かせない、歴史的に必要な人と評価したことになる。「技術が高い」だけではなく、『その技法や発想が後続の基準になる』レベルの人たちであり、「売れるデザイン」ではなく、『語られるデザイン』という表現が面白い。流行や一時的な評価ではなく、何十年・何百年後も価値が残ると判断された作家と称されるのだ。

舟申盛雄、中村ミナト、関根正文の身に着けられる美術史を堪能したい

このような歴史的にも価値のある国立美術館収蔵作家が日本にもいる。

現存する舟申盛雄、中村ミナト、関根正文の3名が、日本のジュエリーの歴史に残されるべき作家として、国立美術館に作品が収蔵されている。

この魅力や価値を伝えることは簡単なことではないが、このような大胆な企画を継続して実行できるのは栄光時計が積み重ねてきた目利き力や商品知識、時代を読む力を備えた上での企画力と言えよう。

昨年のJJF(ジャパンジュエリーフェア)に3名の収蔵作家の作品が栄光時計によって初めて出品されたが、感度の良い小売店からはすぐに要望が入った。それを機に3名のスケジュールは多忙となり、同時に製作にも追われているため、今回のアンソロジーには舟申盛雄氏のみが間に合った。それでも収蔵作家の価値を感じることは可能である。

全国の宝飾小売店をはじめ、百貨店から求められる幅広いカテゴリーのジュエリーを用意するとともに、国立美術館収蔵作家という新しく、異なった価値ある作品を、連れてくる顧客へ伝えることができれば、これまで集めたジュエリーだけでなく、これから購入するであろうジュエリーの楽しみ方や価値感に厚みを持たせることができる。それが顧客満足に繋がることは間違いなく、時間が許す限り多くの顧客に紹介したい。

栄光時計創業80年を迎えて

栄光時計株式会社 代表取締役 岩崎 伸一

今年もANTHOLOGY IN OSAKAの開催の季節がやってまいりました。本年は弊社にとって創業80年という大きな節目の年を迎えます。

1946年の創業以来、時代の変化とともに歩みを重ねることができました。ひとえに長年にわたりご支援・ご愛顧を賜りましたお取引先様、そしてお客様のお力添えの賜物と、心より感謝申し上げます。

その感謝の想いを形にすべく、本年は例年以上に内容を充実させ、感動と記憶に残るイベントを多数ご用意しております。

近年、時計・宝飾業界を取り巻く環境は、中国インバウンド需要の減少や金価格の高騰など、大きな変化の只中にあります。そのような時代だからこそ、改めて「人と商品が出会う場」「リアルな価値を体感できる場」の重要性を見つめ直し、創業以来大切にしてきた「対面での信頼関係」を次の世代へつなぐべく、幹部社員を中心に昨年の開催を振り返りながら幾度もミーティングを重ね、内容をアップデートしてまいりました。

ご提案する商品につきましては、毎回ご参加いただいている業者様はもとより、初参加となる業者様や初出品ブランドも多数揃えております。会場演出は、毎回大好評をいただ



いている満開の桜をメインに、今年のテーマは「旅」。創業80年の歩みを重ねてきた弊社ならではの視点で、ご来場のお客様が各ブースを巡りながら、新たな発見とお気に入りの逸品に出会える空間を演出いたします。

ANTHOLOGY IN OSAKAはコロナ明けから4回目の開催となりますが、参加いただく得意先様からは年間スケジュールの中でも欠かせない商談イベントの一つとして高い評価をいただいております。初めてご参加くださる得意先様も年々増え、また取引業者様からの参加希望も多く寄せられていることに、改めて御礼申し上げます。

創業80年の歩みと、次の時代へ向けた挑戦を感じていただける場として、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

「愛されるパートナーNo.1」の実現に邁進

栄光時計株式会社 上野健治

コロナ明け4回目となる今回のANTHOLOGYは、過去の反省を基に、今まで以上に楽しんでいただける内容に変化させ、お客様目線で振り返り企画いたしました。日本を代表する作家の先生方を始め海外ブランドの数々、希少性の高い宝石、日本の宝石、ファッションジュエリー、高品質ダイヤモンドをあしらった腕時計、世界的芸術家など、個性と感性が調和するANTHOLOGYに変化して



ます。後世に残る有数の消費者展になるよう、全国スタッフ全員で総力を挙げて皆様のお越しをお待ちしております。

一昨年は20名ほどのデザイナーさんが卒業され、いよいよ私たちが以前よりご紹介している作家の時代が到来しています。デザイナー+作家の先生方の感性、ものづくりへのこだわり、これこそが真のジュエリーと信じ、日本のジュエリー文化を国内のみならず世界に発信することが我々の使命と考えております。今後も時代の変化を捉え、お客様や小売店の皆様にご満足いただける展示会をご提案し続けます。

弊社は今年、創業80年になります。100年企業を見据え、ベテランの経験と若手の感性を融合させ「愛されるパートナーNO.1」の実現に邁進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

このANTHOLOGYは前年の開催が終了した翌日から準備がスタートし

ます。後世に残る有数の消費者展になるよう、全国スタッフ全員で総力を挙げて皆様のお越しをお待ちしております。

一昨年は20名ほどのデザイナーさんが卒業され、いよいよ私たちが以前よりご紹介している作家の時代が到来しています。デザイナー+作家の先生方の感性、ものづくりへのこだわり、これこそが真のジュエリーと信じ、日本のジュエリー文化を国内のみならず世界に発信することが我々の使命と考えております。今後も時代の変化を捉え、お客様や小売店の皆様にご満足いただける展示会をご提案し続けます。

弊社は今年、創業80年になります。100年企業を見据え、ベテランの経験と若手の感性を融合させ「愛されるパートナーNO.1」の実現に邁進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

このANTHOLOGYは前年の開催が終了した翌日から準備がスタートし

FUNAKUSHI × MUNSTEINER 日本とドイツ 作家によるコラボに注目



DOH PEDRO スミソニアン国立自然史博物館

られているのが、スミソニアン国立自然史博物館で最も価値ある展示物の一つとなる約35cmの巨大なオブジェ「ド・ペドロ」。長さ約59cmのアクアマリ

クアマリンをセンターに施したペンダントを発表した。

舟申氏は、至難の業といわれるドイツ国立ドナウ美術学校を規定の4年重量約25kgの収蔵作品は必見だ。



Funakushi

舟申盛雄氏は、友人であるベルン・ト・ムンシュタイナー氏がカットしたア

クアマリンをセンターに施したペンダントを発表した。

舟申氏は、至難の業といわれるドイツ国立ドナウ美術学校を規定の4年重量約25kgの収蔵作品は必見だ。

若くして「京都国立近代美術館」や「東京国立近代美術館」に多くの作品が収蔵され、実力が認められている。

糸鋸を単に切断だけに使用するのではなく、造形的手段として使い、数百本のヤスリを自在に操る技など語り尽くせないほどだが、見えない部分にまで拘り、全てを自らの手で作りあげる「作家舟申盛雄」の世界を楽しみたい。

数百年後も価値が残る収蔵作家とは

国立美術館に収蔵された作品は、いわば美術館が責任を持った作品である。「この時代に、人はこう作り、こう考えていた」という時代の技術と思考の座標であり、代替え不能な基準として扱われる。収蔵作家の価値は今の

評判より、未来の問いに耐えられるかで決まる。つまり、未来の人がその時代を理解するために必ず触れなければならない「痕跡」であり、ジャンルや文化的要素、技術などを明確に語れる作品であることだ。

Shudo



首藤治率いるジュエリークラフトシュドウでは、日々ハイジュエリーの制作を行っている。美しいという想い、アンティークに魅せられた技、想いのままにジュエリーを作ること。ジュエリーを通して、色んな「想い」をカタチにしている。



Tsukasa Muramatsu



自然の中にある色彩や造形美から多くのヒントを得て作品を造り出す。そのイメージを具現化するために、七宝や彫金といった様々な技術を用い、デザインから金属加工、全ての工程を自身が手がけている。



SPECIAL GUEST

会場内特設ステージにてトークショーをお楽しみください



3/15 SUN 沢村 一樹 ①11:30~ ②14:30~
モデルとしてキャリアをスタート。テレビドラマや映画で活躍する一方、バラエティ番組にも登場するなど、幅広く活躍中。



3/16 MON 大地 真央 ①11:30~ ②14:30~
兵庫県出身の俳優。宝塚歌劇団の看板スターとして活躍。退団後は、舞台を中心に幅広く活躍中。受賞歴多数。

開催時間はスケジュール調整により変更する場合があります。

スペシャルランチ 12:30~

「旅」をテーマに日本・ドイツ・イタリアのブースを設置し、世界のジュエリーを楽しむアンソロジーのスペシャルランチ

は、リーガロイヤルホテルの「和」のスペシャルメニュー懐石料理。

ランチショー 13:00~

13時からはじまるランチショーは、司会者タージンの愉快なトークを楽しみながら、和太鼓の鼓動と津軽三味線のコラボを堪能でき、最後はブラジル・サンバで最高潮に会場を盛り上げる。